

## 三重県立四日市農芸高等学校

地域資源を活用した鶏舎敷材の開発及び堆肥化に関する研究  
～地域産業との連携による環境に優しい野菜栽培の実践～

四日市でふかんに栽培されるかぶせ茶の畑から伊勢湾を望む

## 地域経済に貢献する養鶏研究

## 課題研究授業から派生した研究チーム

三重県立四日市農芸高等学校の研究チーム「みのりのプロジェクト」は、食品廃棄物などを用いた養鶏用飼料（エコフィード）や堆肥生産の研究を行っている。彼らは学校の課題研究授業から派生した有志の研究チームだが、中谷財団成果発表会でベストセレクト賞を受賞したほか、「農業高校の甲子園」といわれる日本学校農業クラブの全国大会（2025年10月開催）出場を決めるなど各研究発表会で優秀な成績を収めてきた。

この活動は2023年度の1学期、「農業高校でしかできない取り組みをしたいと思った」という現3年（当時1年）の中久木美月さんが、担当の福永敦史教諭の呼びかけに応じたことで始動。2学期に中久木さんの同級生や当時2年生の先輩たちが加わり、活動は本格化した。



「みのりのプロジェクト」メンバーは総勢9名。  
2年の村上そらさんと清水湧功さん、1年の稲垣そよさんらは「先輩たちのように「コミュカ」を高めたい」と話す



学校内の鶏舎で鶏に給餌の様子



## ●実施担当

福永敦史 教諭

## ●活動のモットー

自分たちの活動が正解かどうかは、これからの努力で決まる。自分たちが進む道を正解にするために努力しようと伝えている。

## 学校概要



「自強不息（自ら務め励み、怠らない）」を校訓に、農業科学科、食品科学科、環境造園科、生活文化科を設置する全日制高校。

設立：1929年

生徒数：592人

所在地：三重県四日市市河原田町2847番地

## 対話力と“巻き込み力”で連携拡大

研究では、飼料に加えるオリーブ残渣や間伐竹材粉末の割合と飼料効率の関係をコストを調査し、農家などにデータを提供。さらには竹粉やコーヒー残渣を鶏舎の消臭敷材に利用し、堆肥化する研究も進行中だ。

研究成果はほぼ毎週参加する各地域イベントや研究発表会で披露しており、場数を踏んだことで対話力が高まったほか、農家や企業、自治体などと協力関係を築く“巻き込み力”も向上している。メンバーたちも「農家さんに期待をかけられて嬉しかった」（3年濱内優衣さん）、「企業の方と対等の立場で協力することに喜びと責任を感じます」（3年家崎諒さん）と充実感を吐露する。これは、「社会実装まで考えることで意義ある学びの意識と研究意欲が高まる」という福永教諭の方針の賜物だ。それを自覚するメンバーは口々に「将来は先生のような教員になって母校で教えたい」と目標を語り、福永教諭の照れ笑いを誘っていた。（個別校助成）



卵黄の成分分析でエコフィードの給餌効果を調べる



地域イベントで活動内容を説明。その場で農家との連携に発展することもある



コーヒー残渣を敷材として利用。消臭効果は高い

この活動は、中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人 中谷財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索



シスメックス株式会社創業者の故・中谷太郎が私財を投じて設立。BME(Bio Medical Engineering)分野の発展を願い、表彰事業をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、小中高校生の科学探究活動に対し助成事業を行っている。2024年に設立40周年を迎え、「中谷財団」に名称を変更した。